

# 日本天文学会早川幸男基金渡航報告書

2005年9月10日採択

申請者氏名	馬場大介 (会員番号 4695)
連絡先住所	〒464-8602 愛知県名古屋市千種区不老町名古屋大学理学部 物理Z研
所属機関	名古屋大学
職あるいは学年	D3
任期 (再任昇格条件)	
渡航目的	研究集会でのポスター発表
講演・観測・研究題目	Deep Near Infrared Survey Toward Vela Molecular Ridge C
渡航先 (期間)	アメリカ (2005年10月23日～10月30日)

私は、10月24日～10月28日にハワイ島のコナで開かれた“Protostars and Planets V”に参加しました。この研究会は、約60のレビュートークと約600のポスター発表があり、参加者総数が800人を越える大規模な研究会でした。発表は“Cloud and Cores”, “Collapse and Protostars”などの13分野に分けられ、私はその中の“Clusters, Associations, and the IMF”という分野で、“Deep Near Infrared Survey Toward Vela Molecular Ridge C”というタイトルでポスター発表を行いました。

私の行った発表は、南天に存在するほ座の巨大分子雲のサーベイ観測の結果報告です。私は2002年から2004年にかけて、この領域を近赤外線 ( $J, H, K_S$ ) でサーベイ観測しました (観測総面積: 約1.5平方度)。本発表では、このサーベイで新たに発見された31個の原始星と5個の若い星団の性質 (質量、空間分布、進化段階) を求め、議論を行いました。ポスター会場は、メインが2つの大部屋で、他には廊下や口頭発表会場の端に離れ小島のように点在していました。私に割り当てられた場所は離れ小島の隅っこで、なかなか人がこない場所でしたが、それでも希に通るかかる人を捕まえては話を聞いてもらいました。ポスターでは、Spitzerのデータを用いた発表を数多く目にしました。その大半は1,2視野の観測データを用いたケーススタディでしたが、それでも従来の  $J, H, K_S$  バンドのみを用いた研究に比べ可能なサイエンスの幅が格段に広がっており、非常に興味深い内容でした。

共同研究の話が持ち上がったりなど、直接目に見える成果はありませんでしたが、丸五日間朝から晩まで研究会に参加し、星形成に関わる研究者と議論を交わせたことは非常によい経験で、私にとって大きな糧となると思います。最後になりましたが、今回このような渡航の機会を与え下さった日本天文学会と早川幸男基金関係者の方々に深く感謝いたします。